

令和2年度 岡山県農林水産総合センター森林研究所（林業研究室）

試験研究課題評価結果票

<事後評価>

- 総合評価凡例 5：著しい成果が得られた 4：十分な成果が得られた
 3：一定の成果が得られた 2：見込んだ成果を下回った
 1：成果が得られなかった

番 号	R2-事後-1						
課題名	菌根性きのこのコンテナ感染苗育成技術の開発						
課題の概要	従来の菌根性きのこの感染苗の育成方法は、苗木の育成が難しく、林地への活着生も低いことから、軽量で植栽時期の自由度が高いコンテナ苗による感染苗の育成技術を開発し、生産の効率化と活着率の向上を図る。						
評価結果	区 分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	目標達成度	人	2人	3人	人	人	3.4
	有効性（効果）	人	3人	2人	人	人	3.6
	有効性（目的以外の成果）	人	2人	3人	人	人	3.4
	効率性・妥当性（費用対効果）	人	5人	人	人	人	4.0
	効率性・妥当性（計画）	人	1人	4人	人	人	3.2
	成果の活用・発展性	人	3人	2人	人	人	3.6
	総合評価	人	3人	2人	人	人	3.6
助言・指摘事項等	1 いろいろな菌根性きのこへの応用が期待でき、今後の実用化への発展が楽しみである。費用面においても、当初予算の約半分で成果を上げたことは評価に値する。						
	2 計画に対する目標・成果・効果は評価できるが、この研究を実用化するため、コスト計算や販売に向けた生産マニュアルの作成が望まれる。						
	3 計画どおりに実施しており、評価基準では「3」の評価結果が多くなったが、成果としては非常に面白いと思う。全体としては高く評価でき、十分な成果といえる。今後の実用化への発展が期待される。						
	4 価値の高い菌根性きのこの人工培養が可能となり、里山地域の所得向上に期待したい。						
	5 コンテナ感染苗を育成できたことは大きな成果と考える。感染苗を用いた菌根性きのこの発生データを提示して、菌根性きのこの人工栽培に繋げてほしい。そのためには、林地植栽後の感染の継続状況、きのこの発生と感染苗の成長、樹齢、感染苗の生育環境・施業との関係を明らかにしていく必要があると考える。菌根性きのこ感染苗と一般の菌根菌の感染苗および非感染苗の成長も比較してほしい。						

令和2年度 岡山県農林水産総合センター森林研究所（林業研究室）

試験研究課題評価結果票

<事前評価>

- 総合評価凡例 5：優先的に実施することが適当 4：実施することが適当
 3：計画等を改善して実施することが適当 2：実施の必要性が低い
 1：計画等を見直して再評価を受けることが必要

番 号	R2-事前-1						
課題名	早生樹種の選抜に向けた研究						
課題の概要	本県では9齢級以上の主伐期を迎えた森林が増加しており、主伐、再造林を計画的に推進することが課題となっている。その一つの対応として、短伐期で初期成長の早い早生樹による再造林が考えられることから、本県に適した早生樹を早期に見出す必要がある。このため、早生樹を含むいくつかの樹種を対象に環境適応性や成長量、形状等について評価を行い、有用な造林樹種の候補となり得る樹種を提案することを目的とする。						
評価結果	区 分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	必要性	人	5人	人	人	人	4.0
	有効性	人	3人	2人	人	人	3.6
	効率性・妥当性	人	3人	2人	人	人	3.6
	総合評価	人	4人	1人	人	人	3.8
助言・指摘事項等	<p>1 必要性の高い研究であり、ぜひ実施すべきである。ただし、岡山県に適した早生樹を選定する上で、成長量のほか、地象や気象等の条件を定める必要がある。また、樹木選定に当たり、用途のほか、これらを樹林化することによるデメリットについても十分検討してほしい。</p> <p>2 現在の造林樹種は主にヒノキで、伐期までに45年かかっている。国が掲げる皆伐再造林を推進していくためにも、岡山県に合った早生樹の研究が急がれている。</p> <p>3 県民や行政ニーズの高い課題で取り組むべき課題である。ただ、これまでにない樹種の導入には慎重であるべきで、マイナス面もしっかりと評価する必要がある。有用樹の選抜とともに問題点を抽出することを含めるよう計画の改善が必要と思うが、それを含めて優先的に実施してほしい課題である。選択肢を広げるという目的が、無節操な導入につながらないよう、その選択肢が可能な条件やリスクなどもセットで示してほしい。</p> <p>4 造林コストの低減とバイオマス燃料としての価値から、今後の再造林選定樹種として期待が持てる。</p> <p>5 何をもって岡山県に適した早生樹種とするかをよく考える必要があるように思われる。県内に採種母樹となる個体があるのか？造林補助金対象とするためには県内に成林した事例があるのか？等の視点も必要ではないか。育苗試験や初期生長調査等は、既に多くの機関で進められているので、よく情報収集して独創性を持って進めてほしい。</p>						

令和2年度 岡山県農林水産総合センター森林研究所（林業研究室）

試験研究課題評価結果票

<事前評価>

- 総合評価凡例 5：優先的に実施することが適当 4：実施することが適当
 3：計画等を改善して実施することが適当 2：実施の必要性が低い
 1：計画等を見直して再評価を受けることが必要

番号	R2-事前-2						
課題名	少花粉スギ・ヒノキコンテナ苗の生産技術の確立						
課題の概要	本県が重要施策として位置づけている少花粉スギ・ヒノキによる植替えを推進するためには、今後、苗木生産の主流となるコンテナ苗の生産効率を向上させる必要がある。このため、充実種子選別装置の効率的な運用方法を検討するとともに、充実種子のコンテナへの直接播種やプラグ苗による生産効率の向上、育成期間の短縮を図るための生産技術を検討する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
	必要性	人	4人	1人	人	人	3.8
	有効性	人	3人	2人	人	人	3.6
	効率性・妥当性	人	2人	3人	人	人	3.4
	総合評価	人	4人	1人	人	人	3.8
助言・指摘事項等	<p>1 初期造林の省力化・低コスト化は全国的にも議論されているテーマであり、新規性があるとはいえないが、政策上及び社会ニーズとしては重要な課題である。計画や実施体制も無理なく組み立てられ、実施することが適当な課題である。</p> <p>2 この研究により、少花粉スギ・ヒノキのコンテナ苗への転換が期待される。現在は生産面で発芽率が悪いこと、コンテナ苗木の単価が高いことにより、一般造林者への普及が遅れている。生産面での課題が解決されれば単価への反映がなされると期待する。</p> <p>3 花粉症に対する抜本的な対策として少花粉スギ・ヒノキの植え替え促進に期待が寄せられている。早急な取組に期待する。</p> <p>4 コンテナ苗生産技術については、今回導入される充実種子選別装置をはじめ、多くのプロジェクト研究が進行中であるので、情報収集に努めて効率的に実施してほしい。少花粉スギ・ヒノキを対象としているところがポイントである。そうであるからこそ、使用する種子がどのように生産されたのか（着花の状況、GA処理、カメムシ防除等）が明らかかなものを使うことが重要であると思われる。</p> <p>5 必要性の高い研究と考えるが、育成期間の短縮に関しては、内容が不確かな点がある。発芽器の導入とあるが、発芽器そのものが従来あるものであれば先進性があるとは言い難く、発芽器の改良を研究の内容とするならば、計画費用や体制で賄えるものか疑問であり、この点を明らかにすべきである。</p>						